3/31
赤旗

たたかいこれから

戦争法施行が強行された29日、全国各地で「許さない」「廃止へ力を合わせよう」と抗議の緊急行動が取り組まれました。

衆院補選を第一歩に

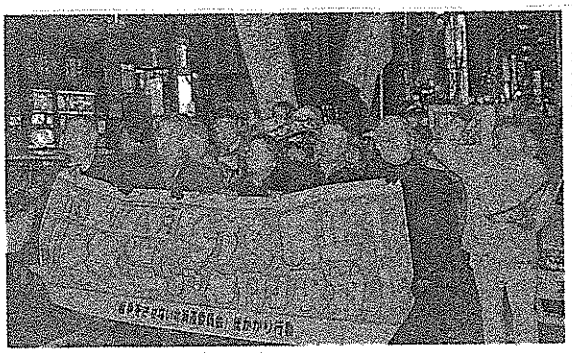
札幌

「戦争させない北海道委員会」などのメンバーら800人が市内中心部をパレード。「戦争法は絶対廃止」「安倍政権は今すぐ退陣」のコールを響かせました。

道憲法共同センター、道平和運動フォーラム、「戦争させない北海道をつくる市民の会」などのメンバーら800人が市内中心部をパレード。「戦争法は絶対廃止」「安倍政権は今すぐ退陣」のコールを響かせました。

沿道からコールに合わせこぶしを突き上げる若者もいました。

行進前の集会で、憲法共同センターの太田真季共同代表は「満身の怒りを込め抗議したい。立憲主義を守るため戦争法廃止に向け共同してたたかっていきたい」。平和運動フォーラムの山木紀彦代表は「衆院5区補選の勝利は安保法制の廃止に追い込む第一歩。安倍政権退陣へ運動を強めよう」とのべました。



戦争法施行に抗議し廃止を求めアピールする人たち＝29日、札幌市

戦争したくなくて…

盛岡

盛岡市の中心部で夜、戦争法の施行に抗議し、廃止を求めるデモ行進が取り組まれ、350人が参加しました。2000万署名岩手の会、パパとママの会いわて、ミナセンいわてが主催しました。

出発前に各界から3人がスピーチ。「子どもたちを絶対に戦争へ行かせたくない」「戦争法を廃止し、立憲主義と民主主義を守る政治家を国会へ送ろう」と訴えました。

サウンドカーを先頭に参加者らは「戦争したくなくてウズウズする」などのプラカードを掲げて行進。「安保法制発動やめて」「野党は共闘」「選挙に行こうよ」と元気よくコールし、注目を集めました。日本共産党の吉田恭子参院岩手選挙区候補も歩きました。

力強く声を響かせるデモ行進の参加者ら＝29日夜、盛岡市

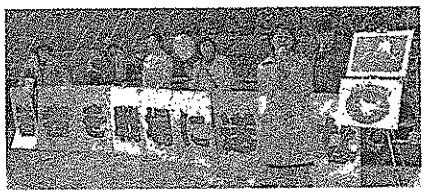
立場を超えて訴える

神奈川

「安保関連法（戦争法）施行に抗議するふじさわ緊急アクション」が、JR藤沢駅前（神奈川県藤沢市）で行われました。市民団体の「ふじさわ・不戦のちかい　平和行動実行委員会」が呼びかけ、超党派の「戦争法廃止を求める藤沢市議会有志の会」や市民が参加しました。

主催者を代表して、同実行委員会の斎藤隆夫さんが「今日を運動の新しいスタートにしよう」と呼びかけ。

日本共産党からは、党市議団、あさか由香参院神奈川選挙区候補と畑野君枝衆院議員が参加しました。あさか候補は「祖父母の世代が戦争を体験し、つらい体験を伝えてきた。この思いを引き継ぎたい。一緒に戦争法を廃止に追い込もう」と訴えました。畑野氏は「党派を超えて戦争法廃止、『閣議決定』撤回、立憲主義を回復する新しいスタートにします」と語りました。



「戦争法を廃止に追い込もう」と訴える、あさか由香候補と畑野君枝衆院議員（後列右から3人目）＝29日、神奈川県藤沢市

「安倍政権を倒そう」

富山

富山県内では日本共産党や市民団体が同法廃止を求める宣伝に取り組みました。

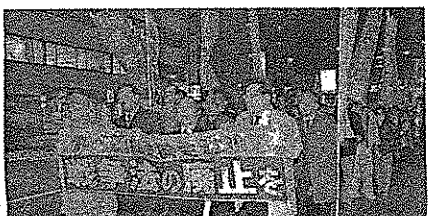
富山市では夜、「戦争法廃止！富山県民集会」第3弾が開かれ、280人が参加しました。

呼びかけ人を代表して生弁護士は「安倍首相は安保法制で抑止力が増すと言っているが、逆に危機を増やしている」と指摘。緊急事態条項を設けるなど改憲を参院選の争点に掲げる安倍政権を倒そうと訴えました。

日本共産党の高橋わたる県書記長（参院富山選挙区候補）と社民党の村石篤富山市議選挙区で野党統一候補となった杉尾ひでや氏のメッセージが紹介されました。

9条の会の会員で沖縄戦を体験した親里千津子さんが「ぜったいに戦争だけはしてはいけない」と主催者あいさつ。戦争をさせないため、1000人委員会・信州の茅野実さんが「たたかいはむしろ、これからです」と訴えました。

僕らが主権者って知らなくて委員会の三石知志さん（30）は「一刻も早く廃止させるために、絶対にあきらめません」とスピーチしました。



戦争法廃止を訴えてデモ行進する参加者＝29日、富山市

絶対にあきらめない

長野

長野市では、戦争法廃止の一点で集会開催や2000万統一署名実行委員会に取り組んできた団体が協力し、夕方に集会とパレードを行いました。

会場には続々と人が集まり、主催者発表は300人。共産、民進、社民の各政党代表があいさつし、参院選予定候補となった杉尾ひでや氏のメッセージが紹介されました。

9条の会の会員で沖縄戦を体験した親里千津子さんが「ぜったいに戦争だけはしてはいけない」と主催者あいさつ。戦争をさせないため、1000人委員会・信州の茅野実さんが「たたかいはむしろ、これからです」と訴えました。

僕らが主権者って知らなくて委員会の三石知志さん（30）は「一刻も早く廃止させるために、絶対にあきらめません」とスピーチしました。

戦争法施行に抗議し、廃止をアピールする参加者＝29日、長野市

廃止の声上げ続ける

名古屋

名古屋市の繁華街では夜、安保法制（戦争法）の施行に反対する市民ら800人が集まりデモ行進しました。

沿道の人らが「平和を守れ」「戦争反対」と一緒にコールするなど安倍内閣の暴走を止めるよう共同行動実行委員会の主催。

ティーンズソウル東海の男子高校生（17）がマイクを握り、「戦争に行くのは俺たち若者です。少しでも戦争に巻き込まれる可能性がある限り、反対・廃止の声を上げていきたい」と語気を強め訴えました。

夫婦で参加した70代女性は「施行されたからといって、これで終わりじゃない。きょうが始まりの日。子や孫のためにも、廃止するまで声を上げ続ける」と話しました。

日本共産党の本村伸子衆院議員がメッセージを寄せ、民進党の近藤昭一衆院議員が参加しました。

「戦争法廃止」のプラカードを掲げ、コールする人ら＝29日、名古屋市

戦争法施行 全国で抗議

安倍政権は間違いだ

岐阜

岐阜県では、岐阜・九条の会と新日本婦人の会岐阜支部が共同で緊急抗議行動を呼びかけ、名鉄岐阜駅前には「安倍政治を絶対に許さない」と市民100人が集まりました。

岐阜・九条の会代表委員の吉田千秋さん(73)や新日本婦人の会岐阜支部長の和田裕子さん(54)が「人を殺すこと」を強要する戦争法廃止の2000万署名にペンを走らせました。

原爆ドーム前で唱和

広島

広島市中区の原爆ドーム前では「ストップ！戦争法ヒロシマ実行委員会」などが抗議集会を開きました。約200人が参加し、「武力で平和は守れない」「安倍政権はただちに退陣」とシュプレヒコールをあげました。

「憲法違反の安保法制と闘う弁護士の会・広島」事務局長の坂岡隆幸弁護士は「憲法の枠組みの範囲でしか権力は動けないという立憲主義の足かせを安倍政権は外し、暴走している」と批判しました。

「戦争をさせないヒロシマ1000人委員会」共同代表の秋葉忠利元広島市長は「世論を大きくすることによって、この法律は必ず廃止することができる」と強調しました。

戦争法施行に抗議する参加者＝29日、広島市中区

学生・ママ・候補者…

参院選で民意示そう

徳島

「安保関連法の施行を許さず・廃止を求める1・3・29集会」が夕方、徳島駅前で開かれ、約500人が参加しました。集会後、駅前辺をデモ行進。「憲法壊すな、9条守れ！だれの子どもも殺させない」などとコールし、市民の注目を集めました。

主催者らいさつで共同代表の吉岡弘弁護士は「憲法違反の法律は認められない。参院選で国民審査で、廃止に追いこもう」と呼びかけました。

日本共産党、民進党、社民党、新社会党の県内4野党代表とともに壇上に立った参院選挙区・高知選挙区の野党統一候補、大西健介氏が決意表明。

デモ初参加の徳島市の大学生、今本真仁さんは「安倍政権は許せない。反自民の投票先が決まるのが楽しみだ」と話しました。

「安保法制廃止反対」などとコールしながらパレードする参加者＝29日、松山市

4野党代表そろって

松山

松山市で開かれた「安保法制施行に抗議し廃止を求める総決起集会」には、180人が参加しました。野党4党の代表が初めてそろって戦争法廃止を訴えました。安保法制（戦争法）の廃止を求める署名運動への協力も呼びかけました。

小松正幸県代表幹事は「安心して平和に暮らせる社会をつくるために、安保法制に反対し、立憲主義を守る野党が一丸となって選挙に臨んで多数を獲得し、政治を変えなければならない」と訴えました。

日本共産党の林紀子参院議員、民進党の寺田静参院議員、社民党県連の嶋根敬子代表、新社会党県本部の島本保徳書記長があいさつ。

参加者は「参院選に向けて野党統一候補立てをめざして連帯していく」とのアピールを採択。商店街をパレードしました。

2000万署名を呼びかける参加者ら＝29日、高知市

命はぐくむ母は強し

高知

「平和と民主主義のための高知県学生の会（SHIDA）」は、かけ声の成否を競び、大津に育ってきたママ法廃止の200万署名を呼びかけ、30人以上から署名が寄せられました。

署名活動に先立つ記者会見では、戦争法廃止に向けて「憲法違反の法律は、誰の子どもも殺させたくない」と語りました。

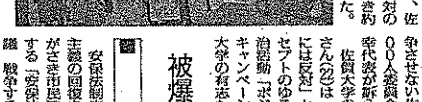
安保関連法に反対するママの会高知支部や、デモで出会った青年らでつくるテキヤティックビーツなど4団体も駆け付けました。

横川和奈代表(25)は「法律は廃止することも使えなくすることもできます。たたかいはここからです」と訴えました。ママの会の仲江康奥さん(30)は「命がとれほど尊いもの戦争法制行に抗議して大津に育ってきたママ法廃止の200万署名を呼びかけ、30人以上から署名が寄せられました。安保関連法に反対するママの会高知支部や、デモで出会った青年らでつくるテキヤティックビーツなど4団体も駆け付けました。

未来の子どものために

佐賀

市民団体などが、佐賀市内で「戦争法反対の緊急抗議集会」を開き約80人が参加しました。


緊急抗議集会の参加者＝29日、佐賀市

堀山敏夫共同代表、東島雅昌共同代表、戦争させない佐賀県1000人委員会の大草秀代表が訴えました。

佐賀大学の小園栄作さん(22)は「今の与党はいけない、命を大切にしなければいけない」という考えはキリスト教と憲法に相通じるもの」と話しました。

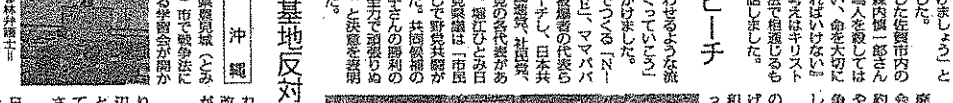
教師、森内慎一郎さん(68)は「人を殺しては教育」というコンセプトのゆるやかな政治運動「ポジティブ・キャンペーン」を佐賀大学の有志たちで企画。

被爆者代表スピーチ

長崎

安保法制廃止と立憲主義の回復を求める市民集会が、長崎市民会館で開かれ、350人の市民が参集しました。

「ながさき市民連盟」の共同代表、宮野由利西園寺一晃さんの呼びかけで実現した。共同代表の西園寺さんの勝利の後押しで野党共闘が


NO！WAR！NO！LOVE！のリードで「戦争に負けない！」とコールする参加者＝29日、長崎市

新基地反対と結んで

沖縄

沖縄県議員候補（とみくすく）市で戦争法に反対する学習会が開かれました。沖縄弁護士会の仲山忠克弁護士が「戦争をする国づくりの物的基盤は、基地」と語りました。

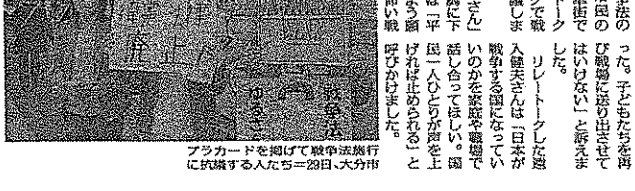
講演する林弁護士＝29日、沖縄県議員候補

再び戦場に送らない

大分

大分市の「戦争法の廃止を求める市民の会（SADA）」は夕方、繁華街で約30人がリレートークした。

リレートークした遊人健夫さんは「日本が戦争する国になっていいのかを家族や職場でのプラカードを掲げて下さい。国民一人ひとりが声を上げれば止められる」と呼びかけました。



プラカードを掲げて戦争法施行に抗議する人たち＝29日、大分市

テレビ時評

NHKに求める自己検証

二部で放送と通信をめぐる現状を取り上げた。一部「激動の時代を越えて」では、久しぶりに戦争の時代、日本の放送協会の歴史が振り返られた。政府の統制下で、国民にウソの情報を流したラジオの犯罪的な役割が語られた。

この番組を見た時、いう感想もなくはないが、それでも当時を知る高齢の元職員の証言は貴重な記録だと思う。

同じような内容を扱った「ETV特集」の放送時間が放映への批判精神を欠き、「アベチャンネル」などと揶揄される一方で、政治権力に屈服した歴史を反省する内容の番組が減っていることに危惧を覚えた。

戦時中の証言

もちろんこの特集にも不満も残る。当時の権力と日本放送協会との関係をもっと分厚く描いてほしかった、との声が聞こえる。

これに比べれば今年で幕合の悪いことだったことについて、「やっぱり自主規制だった。すっかり戦争中のように、専ら政府に協力していった経過がとられていた。

最後のコメントも、「この歴史は」いま放送法成立時の入閣に携わる者だけに、なにをしてはならないかを問いかけている」ならない。本当のことを伝えろ、政府にとって都合の悪いことだった。これに比べれば今年の特集はやや物足りない感じもあるが、それでも当時を知る高齢の元職員の証言は貴重な記録だと思う。

安保法施行で

番組は最後に、1945年に会長に就任した高野岩三郎の言葉、「放送は、常に政府から独立し、厳正公平、不偏不党の立場を保持しなければならない」を紹介。

国家権力に翻弄され、所期の国民目的のために利用されることは絶対にこれを慎み、権力に屈せず、ひたすら大衆に奉仕することを確守すべきであります」を紹介し、「歴史の中で築かれた理念をもう一度実現していくのか、問われています」と結んでいる。「同感」とは言え、「政府のためではなく、大衆のための放送」という理念であるはずである。

先の高市総務大臣の「停波」発言は、放送局の自己だけでなく、NHKが戦時中の反省の原点に繰り返し立ち返り、自己検証を始めるよう求めているのである。

安保法が施行されたいま、放送が再び日本の戦争を報道する事態が起こりうる。放送記者の一人ひとりが、大衆の側に向かって発せられているかが問われている。

（とさき・けんじ）